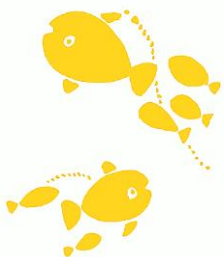


# 不安の医学 第16回 横浜講演会



## テーマ：パニック症

入場  
無料

※事前予約不要

日時：令和2年3月29日（日）  
14時30分～16時30分（14時開場）

会場：はまぎんホール ヴィアマーレ

※会場詳細は裏面をご覧ください

### ◆プログラム◆

司会：NPO法人不安・抑うつ臨床研究会代表 貝谷 久宣

◆ 14：30～ Opening Remarks 貝谷 久宣

◆ 14：40～ 『パニック症の臨床』  
医療法人和楽会 横浜クリニック 院長 山中学

（休憩 10分）

◆ 15：35～ 『パニック症の体験について』  
文筆家 古谷 経衡

◆ 16：20～ Closing Remarks 貝谷 久宣

事務局：NPO法人 不安・抑うつ臨床研究会（医療法人和楽会 横浜クリニック内）

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-2-10 アスカ第2ビル7F

TEL：045-317-5953 FAX：045-317-5954

共 催：NPO法人 不安・抑うつ臨床研究会 Meiji Seika ファルマ株式会社

## ◆◆◆ ご挨拶 ◆◆◆

パニック症は古くて新しい精神疾患です。江戸期には既にパニック症に関する記載があったことが知られています。最も有名なのが、臨済宗の白隠禅師のパニック症です。彼は『夜船閑話』という本の中に自分のパニック症の症状を詳しく記しています。また、白幽子という仙人に伝え聞いた内観法と軟酥の術で自己治療し、一年後には回復しております。白隠の軟酥の術は、現代のマインドフルネスにおけるボディスキャンニングと呼ばれる治療法となっております。その点では白隠は日本のマインドフルネスのパイオニアであるということもできます。

近年では、内科医であり芥川賞作家でもある南木佳土や、現代日本作家の宮本輝、宮尾登美子、谷崎潤一郎らもパニック症であったといわれています。彼らは若い時代にパニック症で大変苦勞し、その結果として立派な作品を残したものと考えられます。

今回は現代日本の若手文筆家の古谷経衡氏を迎え、彼の闘病記を話していただきます。また、横浜クリニック 院長の山中 学先生にもパニック症の臨床に関するお話をいただきます。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。

## ◆ 演者の紹介 ◆

### 貝谷 久宣

1943年名古屋生まれ。愛知県立明和高等学校、名古屋市立大学卒業後、岐阜大学医学部神経精神医学教室に所属し、恩師難波益之教授の指導の下に神経病理学、生物学的精神医学の研究に従事。1972年より2年間、ミュンヘン・マックスプランク精神医学研究所に留学。帰国後講師、助教授を歴任。1991年より2年間自衛隊中央病院神経科部長を務め、1993年になごやメンタルクリニック開院。その後1997年に赤坂クリニック、2003年に横浜クリニックを開院。2013年には東京マインドフルネスセンターを開設。他にも、一般社団法人日本筋ジストロフィー協会代表理事、京都府立医科大学客員教授等を務めている。主な著書：「不安・恐怖症、パニック障害の克服」講談社(1996),「不安症の時代」日本評論社(1997),「脳内不安物質」講談社(1997),「マインドフルネスー基礎と実践ー」日本評論社(2016)など。



### 山中 学

1965年生まれ。1991年東京大学医学部卒業。東京大学心療内科、東京女子医科大学東医療センター准講師・内科医局長を経て、2019年5月より医療法人和楽会横浜クリニック院長。心療内科・神経科 赤坂クリニックでは1997年より診療。



### 古谷 経衡

1982年北海道札幌市生まれ。立命館大学文学部史学科（日本史学専攻・近世、近代）卒。一般社団法人日本ペンクラブ正会員。主著に『愛国商売』『女政治家の通信簿』（小学館）、『日本を蝕む「極論」の正体』（新潮社）、『「意識高い系」の研究』（文春新書）など多数。現在、若者論、社会、政治、サブカルチャーなど幅広いテーマで執筆評論活動を行う一方、テレビ、ラジオを中心に新進気鋭の論客として活躍。地上波番組コメンテーター、紙媒体連載、ラジオコメンテーターなど実績多数。



## ◆ 会場詳細 ◆

### はまぎんホール ヴィアマーレ

横浜市西区みなとみらい3-1-1

TEL : 045-225-2183

※横浜銀行本店ビル1階にあります。

定員：500名

- JR 京浜東北根岸線・横浜市営地下鉄 桜木町駅下車「動く歩道」利用徒歩 5分
- みなとみらい線 みなとみらい駅下車 「クィーンズスクエア連絡口」・「けやき通り口」徒歩 7分

※駐車場はございませんので、公共交通機関等でお越し下さい

